

司法書士試験 中上級公開講座

2年目受講の決定版！
「実践力PowerUp 講座」の全貌
とタイプ別合格戦略

担当 専任講師 海野禎子



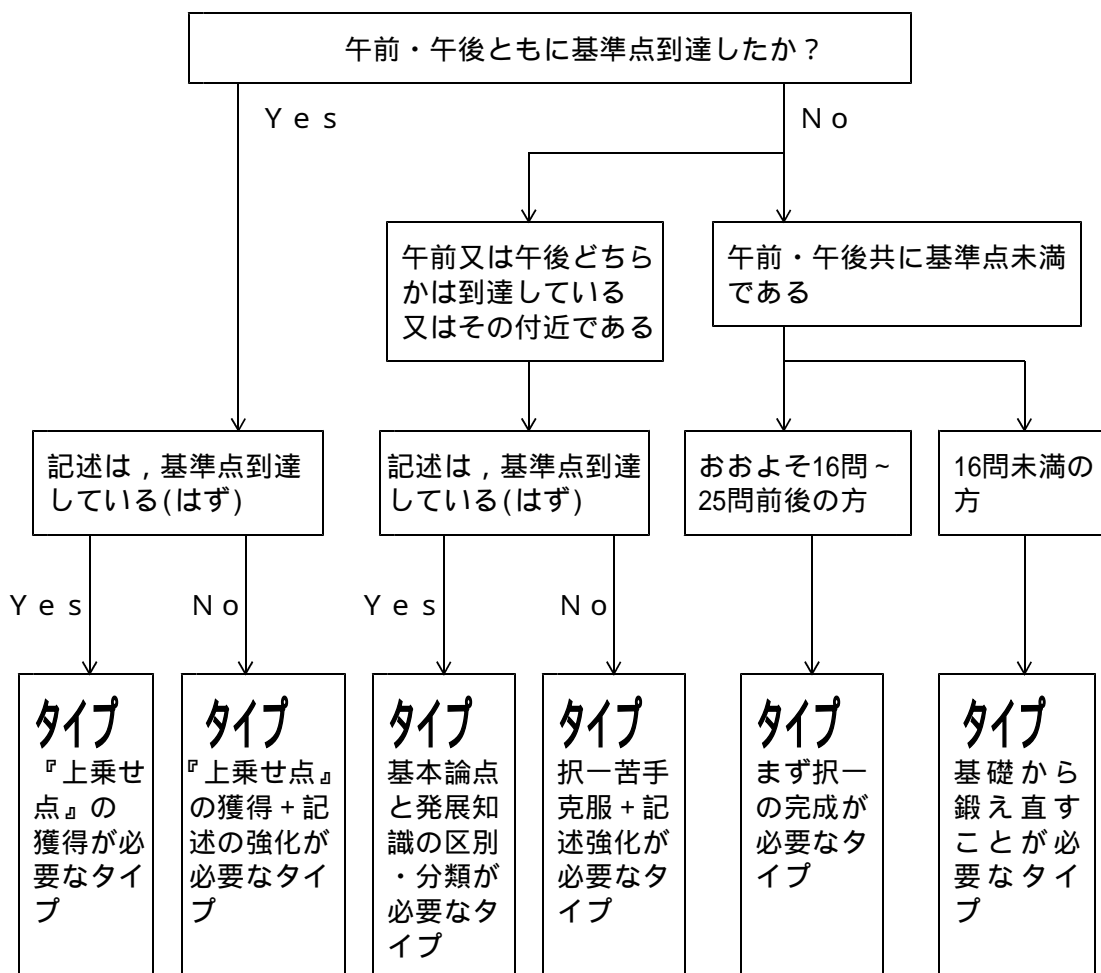
0 001921 223134

SU22313

1. 令和4年度の基準点予想

		基準点予想
択一	午前	28問or29問(84点or87点)
	午後	25or26問(75点or78点)
記述		32点～36点 / 70点

2. タイプ分類



3. タイプ ~ の学習法

(1) **タイプ 基礎から鍛え直すことが必要なタイプ**

初級講座をすべて受講していない場合
スケジュールを組んで、まずは全講義を受講・復習

答練までの択一はインプットに徹するべし
テキスト読み込み、過去問まで。登練問題はやらない。

「自分で勉強する」は成功するか

選択肢としての 実践力パワーアップ 又は 初級講座(再受講)

記述対策は今すぐ始めるべし

記述の演習についてはタイプ と同じ

(2) **タイプ まず択一の完成が必要なタイプ**

「何となく知っている」と「確実に分かっている」の間には、大きな隔たりがあることを知る

「確実に分かっている」状態とは、人に説明できる状態を指す

制度趣旨を丸ごと言えなければならない箇所と、要件を暗記しなければならない箇所と、キーワードを掴んでおけばよい箇所の区別を意識した勉強をする

勉強には「その点を学ぶべきベストな時期」がある

まずは、確固たる「知識の土台」を作り、その上に発展的な知識を積み上げていく

筆記合格発表まで待ったら間に合わない！

記述については、タイプ と同じ

(3) タイプ 択一苦手克服 + 記述強化が必要なタイプ

苦手科目が不動産登記法又は商業登記法の場合
記述と共通の箇所は、択一の知識獲得を先行させる

特に午後が基準点未満という受験生の場合
タイプ 参照

民法の学習時期に不登法の雛形を、会社法の時期に商登法の雛形を学習開始する
クドイようだが、雛形の暗記を侮るな!

(4) タイプ 基本論点と発展知識の区別・分類が必要なタイプ

< 特に午後が基準点未満という受験生への対策 >

答練・公開模試の択一の得点よりも本試験の成績が下がってしまった場合
基本論点と発展論点の区別があやふやになっているおそれあり

基本論点は、3月まで・2月～3月(答練時期)、直前期と3回かけて完成させる

発展論点は、答練開始後に着手する

過去問学習は肢別ではなく、1問タイプで
「この問題ではどの肢を軸足(肢)にするべきか」という目線で問題を解く

筆記試験合格発表の頃までの記述対策は、雛形の完全暗記及び記述論点のイン
プット中心

登記法択一のインプットの際に、「これが記述だったら？」という目線で再確認する

記述の演習は、答練以降から開始する

4. 実践力パワーアップ講座の特徴

得点に応じた3つの中上級講座を提案

	午前択一	午後択一	お勧め講座
インプット 中心	15問～27問前後	15問～22問前後	実践力パワーアップ講座
	20問～30問前後	20問～25問前後	マジック攻略降講座
	28問～	25問～	パーフェクトローラー講座
アウトプット 中心	20問～30問前後	20問～25問前後	択一ターゲット攻略講座

ペースメーカーとしての実践力パワーアップ講座

2年目以降はとにかくスケジュール管理が大切!

民訴系3法・憲法・刑法は、主要科目と並行して年内に受講完了し効率的学習を実現!

初級講座の2回分の内容を1回に凝縮

講義は網羅性を重視

網掛けテキスト

どこが重要論点なのか、目で見て分かる!

令和5年改正法に完全対応

不動産登記法・商業登記法の先例が発表されれば補講でカバー

記述対策は記述インプット & 解き方伝授の2本建て

全科目改正法対応のセルフレクチャーを全科目提供

LEC 東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド

(C) 2022 TOKYO LEGAL MIND K. K., Printed in Japan

無断複製・無断転載等を禁じます。